

住みやすいまちとは ～東洋経済の住みよさランキングを検証～

藤澤ゼミ 2014 年度卒業 T.K

1. はじめに

東洋経済の「住みよさランキング 2014 年」では、3 位の野々市市をはじめ 10 位以内に北陸の市が 5 市も入っている(表 1)。そこで、なぜ北陸が住みやすいと評価されるのかを調査する。

2. 目的

本研究の目的は、東洋経済の指標の特徴を見つけ、他の調査を参考にランキングを作成し、本当に住みやすいまちはどこかを考察することである。

3. 内容と方法

北九州都市協会(2004) (北九州方式) をベースに 95 項目から入手可能な 38 項目の指標を選定し、東洋経済住みよさランキング上位 50 市について、各項目に偏差値(= (得点-平均点) / 標準偏差×10+50)をつけ、総合得点から、順位づけした。さらに北陸が上位にくる理由を探るために、東洋経済で使用されている 15 項目を主成分分析した。

4. 結果・考察

北九州式を採用した順位は、東洋経済の順位とは大きく異なった(表 2)。北陸では、富山市が 35 位から 5 位と大きく順位を上げた。その理由は、東洋経済では採用されていない水道使用料金などの、公共基盤の項目で高順位になったことと、人口当たり卸売業年間販売額が 50 都市中の 2 位で、高順位になったためである。一方、かほく市は、7 位から 35 位、野々市市は、3 位から 26 位と順位を落とした。

東洋経済の指標の主成分分析の結果から(図 1)、第 1 主成分で特に強く出た項目は、世帯当たりの住宅面積と持ち家率で、北陸の特徴としてあげられる要素である(北陸型)。例えば、世帯当たりの住宅面積はトップ 5 を北陸の都市が独占しているため、東洋経済では上位だったといえる。つまり、東洋経済は北陸が有利になりやすい項目が指標として使用されている。注目なのは、東洋経済総合 3 位の野々市市が、北陸の中でも例外として都市型の成分が強いことが分かった。東洋経済で上位に入っている北陸の都市には、典型的な北陸型と、野々市市のような都市型の 2 タイプあることが分かった。

5. おわりに

本研究では、項目を増やすことで、相対的に東洋経済で重視されていた住居の優位性が弱まることを確認できた。

本研究の目的は、本当に住みやすいまちはどこかを考察することであったが、何を指標に持ってくるかで、住みやすさランキングは大きく異なるという知見を得た。

<参考文献等>

- ・東洋経済新報社(2013)「都市データパック」
- ・財団法人北九州都市協会 (2004)「住みよい都市」
- ・総務省統計局 (2014)「統計でみる市区町村のすがた」
http://www.stat. go.jp/data/ssds/(アクセス年月日 2014 年 11 月 15 日)

表 1 : 東洋経済ベスト 10

東洋経済順位	
1位	千葉県 印西市
2位	福井県 坂井市
3位	石川県 野々市市
4位	愛知県 長久手市
5位	茨城県 守谷市
6位	福井県 鯖江市
7位	石川県 かほく市
8位	岐阜県 本巣市
9位	石川県 能美市
10位	宮城県 名取市

表 2 : 北九州式ベスト 10

北九州式順位	東洋経済順位
1位	愛知県 みよし市 11位
2位	愛知県 長久手市 4位
3位	福井県 敦賀市 23位
4位	福井県 福井市 12位
5位	富山県 富山市 35位
6位	千葉県 成田市 19位
7位	滋賀県 栗東市 50位
8位	山梨県 中央市 29位
9位	滋賀県 草津市 17位
10位	石川県 能美市 9位

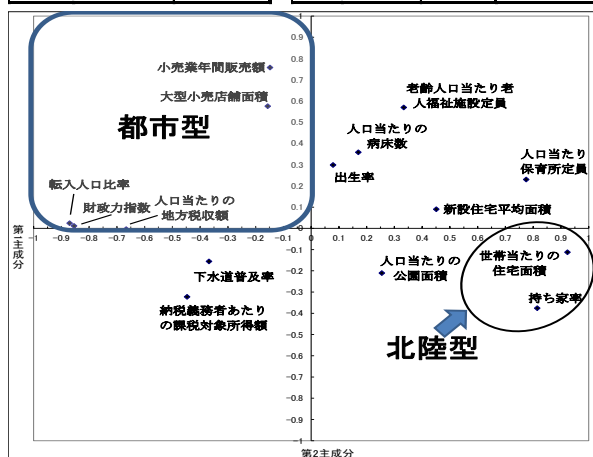


図 1 : 東洋経済の指標の主成分得点プロット図